

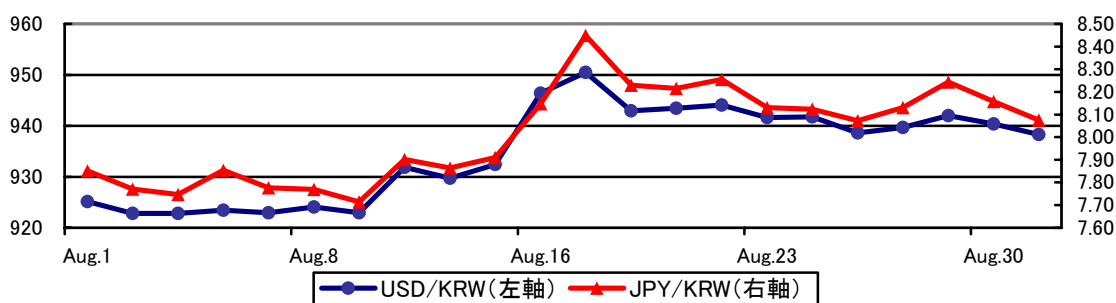
韓国ウォン為替資金月報

三菱東京UFJ銀行ソウル支店
 2007年9月5日作成

1. 前月（8月）のウォン為替動向レビュー

	始値	高値	安値	終値
対ドル	919.90	953.60	919.90	938.30
対円	7.8509	8.4489	7.7149	8.0759

(注) 対円の四本値は終値ベース



<ドル・ウォン相場>

8月のドル・ウォン相場は、サブプライムローン問題により市場でのリスク回避傾向が強まったことから、株式市場の下落やキャリートレードの巻き戻しが起こったことで、月央にかけて急反発した。月末にかけては、各国中央銀行の流動性供給や米国政府がサブプライムローン問題対策を打ち出したことから、市場はやや落ち着き、ドル・ウォン相場も940ウォンを挟んだ揉み合い相場となった。

月初は、米国株が不安定ながらも、一旦は反発していたことからドル・ウォン相場は総じて、920台を中心とした揉み合い相場となった。韓国中銀の予想外の利上げもあったが大きな変動要因にはならなかった。

しかし、月央にかけては、サブプライムローン問題により市場でのリスク回避傾向が強まったことから、株式市場の下落やキャリートレードの巻き戻しが起こったことを受けて、ドル・ウォン相場は急反発し、950ウォン台まで上昇した。

その後は、各国中央銀行の流動性供給や米国政府がサブプライムローン問題対策を打ち出したことから、市場はやや落ち着き、ドル・ウォン相場も940ウォンを挟んだ揉み合い相場となり、938台前半レベルで引けた。

<円・ウォン相場>

8月の円・ウォン相場は、サブプライムローン問題により市場でのリスク回避傾向が強まったことから、株式市場の下落やキャリートレードの巻き戻しが起こったことで、ドル・円相場が月央にかけて急落し、ドル・ウォン相場が急反発したことから、急上昇したが、月末にかけては、8.10ウォンを挟んだ揉み合いとなった。

月初は、ドル・円相場が揉み合い相場となったために、円・ウォン相場も揉み合い相場となった。



しかし、月央にかけては、サブプライムローン問題により市場でのリスク回避傾向が強まったことから、株式市場の下落やキャリートレードの巻き戻しが起こったことを受けて、ドル・円相場が大幅下落し、ドル・ウォン相場は大幅上昇したことから、円・ウォン相場は急反発し、8.4ウォン台へ上昇した。

その後は、各国中央銀行の流動性供給や米国政府がサブプライムローン問題対策を打ち出したことから、市場はやや落ち着き、円・ウォン相場も8.10ウォンを挟んだ揉み合い相場となり、8.07ウォン台で越月した。

2. 今月（9月）のウォン為替相場見通し

<ドルを取巻く環境、ドル・円相場>

8月の相場は、揉み合い後、サブプライムローン問題により市場でのリスク回避傾向が強まったことから、株式市場の下落やキャリートレードの巻き戻しが起こったことで、ドル・円相場が月央にかけて急落した。

米国株相場は、足元では落ち着きを取り戻してきてはいるが、不安定な値動きとなっており、ドル・円相場も下落しやすい状況が続く見通し。

米国金利については、サブプライムローン問題による景気懸念等により、市場の利下げ期待は高まっている状況。

一方、日本景気については、コアCPIの前年比が依然、マイナスの状況だが、日銀の利上げ見通しについては、9月は現状の金融市場動向を鑑み、金利据え置きの方算が大きい、10月以降は利上げの方算が大きい。

こうした環境下、9月のドル・円相場についても、下落しやすい展開になることが予想される。また、絶対的な金利差等を背景とした中期的な円安トレンドについては、8月に転換し、年末にかけては、米国景気減速の鮮明化⇒FRBの利下げの流れの中、トレンドとしては円高・ドル安方向にいく公算が大きいと考える。

<ウォン相場>

9月のドル・ウォン相場は、輸出筋からのドル売り圧力はあるものの、米国株がサブプライムローン問題の景気等への影響懸念から不安定な展開が予想されることから、キャリートレードの巻き戻しの思惑が高まりやすい中、引き続き上昇しやすい地合を予想。

円・ウォン相場については、ドル・円相場が下落しやすい展開が予想されることから、上値をトライする展開を予想する。

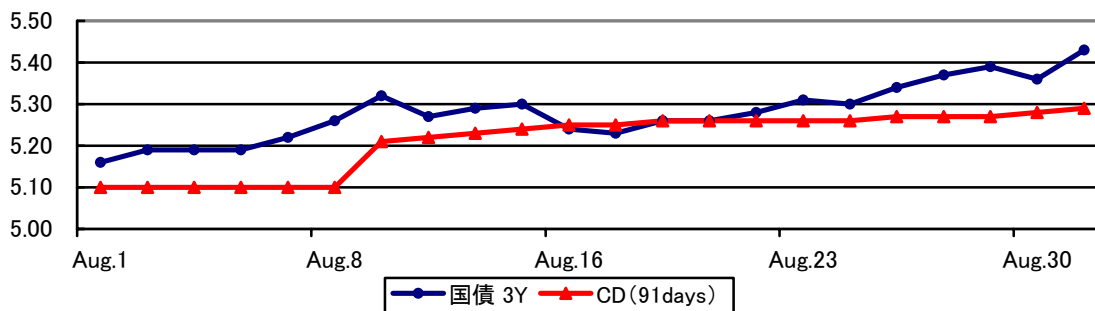
9月の予想レンジ（ドル・ウォン相場）： 930ウォン - 950ウォン

（円・ウォン相場）： 7.95ウォン - 8.35ウォン

3. 前月（8月）のウォン金利動向レビュー

	始値	高値	安値	終値
コール(O/N)	4.58%	5.02%	4.58%	4.98%
CD(3M)	5.10%	5.29%	5.10%	5.29%
国債(3Y)	5.16%	5.43%	5.16%	5.43%
MSB(1Y)	5.23%	5.39%	5.22%	5.39%

(注) 四本値は毎日の終値ベース



8月のウォン金利は、韓国中銀の予想外の利上げもあり、総じて強含みの展開となった。

9日の金融通貨委員会では政策金利が7月に続き、2ヶ月連続の引き上げとなった。（5.00%←4.75%）予想外の利上げだったこともあり、利上げを受けて、CD（3M）金利は上昇し、月末までに5.29%まで上昇した。

中長期金利については、利上げを受けて、国債(3Y)金利は5.39%まで上昇したが、月央にかけては、サブプライムローン問題により、韓国株が下落したことや米中長期金利が低下したことを受けて、5.23%まで低下した。月末にかけては、韓国株が反発したことや次回金融通貨委員会での利上げ懸念も一部台頭し、国債（3Y）金利は上昇し5.43%近辺で引けた。

4. 今月（9月）のウォン金利動向見通し

前月、韓国中銀は2ヶ月連続となる利上げを実施。声明では、景気については『輸出は引き続き堅調、投資や個人消費も順調に拡大』とし、物価については『消費者物価は原油価格の上昇にも関わらず、引き続き安定、不動産価格の上昇速度は抑制されている。』とのコメントを出す一方で、『金融機関の貸し出しは引き続き堅調な伸びを見せている』とのコメントも示した。

また、『利上げ後の金利水準については、今回の利上げにより、金融緩和度合いはかなり減少。』とのコメントを出し、利上げ後の金利水準が、金融緩和的ではないことを強調した。

経済指標では、GDP(2Q)が前年同期比+5.0%と上方修正され、産業経済動向（7月）の産業生産指数は前年比+14.3%、サービス業活動動向は、前年比+9.8%と極めて堅調な結果となっており、足元景気の堅調さを裏付けるものとなった。

一方、物価については、消費者物価指数（8月）が、前年比+2.0%と落ちついた結果となっている状況。

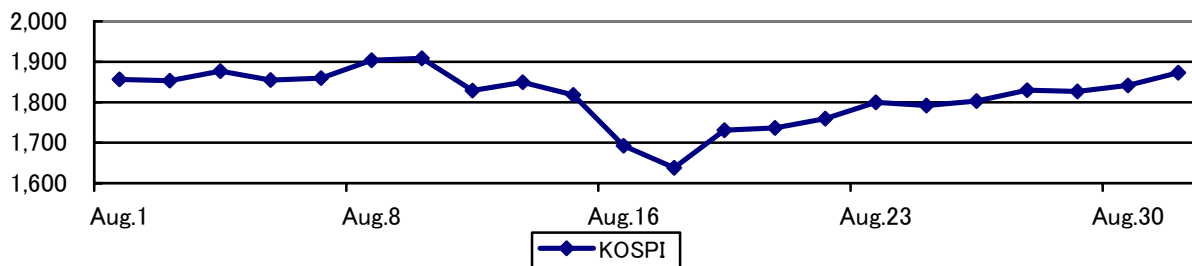
今月は7日に金融通貨委員会が開催される。前回（8月）の声明で利上げ後の金利水準が金融緩和的ではないことをコメントしていることや7月、8月の利上げが金融機関の貸出の急速な伸びに対しての将来のインフレ懸念を予防的に抑えるということが主な目的だったことと考えられること、足元ではサブプライムローン問題により、米国景気の減速懸念が高まっていることから、連続的な利上げは行わず、今回は金利据え置きの方算が大きいと考える。

CD（3M）金利については、今後の連続的な利上げは想定しづらいものの、利上げリスクは依然残ることから高止まりを予想。

また、中長期金利については、利上げリスクも依然残っていることや株式市場が持ち直してきていることから低下しづらい状況だが、米中長期金利の低下基調が鮮明となっていることや米景気減速により、株⇒債券へのアセットアロケーションの変更も意識されることから、低下余地を探る展開となることを予想。

5. 前月（8月）の株価動向レビューと今月（9月）の見通し

	始値	高値	安値	終値
KOSPI	1,920.07	1,920.07	1,626.87	1,873.24



8月の株価指数（KOSPI）はサブプライムローン問題により市場でのリスク回避傾向が強まったことから、月央にかけて、大幅下落したが、月末にかけては値を戻す展開となり、越月した。

月初から前月の流れを引継ぎ、上値の重い展開となった。月央にかけては、米国株がサブプライムローン問題の景気への影響を懸念し大幅に下落したことから、外国人投資家の売りにKOSPIも大幅下落する展開となった。

しかし、月末にかけては、米国株が不安定ながらも値を戻す展開となり、KOSPIも上昇し、越月した。

今月については、足元景気堅調は確認できているが、米国株が引き続き不安定な値動きになることが予想されることから、KOSPIも上値の重い展開を予想する。

編集：ソウル支店 為替資金課（為替資金課長 前田 博文）

E-mail: hirofumi_maeda@kr.mufg.jp tel. 02-399-6480, facsimile 02-734-2028

(株)三菱東京UFJ銀行 ソウル支店

ソウル特別市 鐘路区 瑞麟洞 33番地 永豊ビル 4階

本資料は信頼出来ると思われる各種データに基づき作成しておりますが、当行はその正確性、安全性を保障するものではありません。また本資料はお客様への情報提供のみを目的としたもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。